



2025年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年5月14日

上場会社名 株式会社トライアルホールディングス 上場取引所 東
コード番号 141A URL <https://trial-holdings.inc>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永田 洋幸
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員グループ経営財務部長 (氏名) 桐島 一寿 TEL 03 (6435) 6308
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年6月期第3四半期の連結業績（2024年7月1日～2025年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期第3四半期	600,037	11.7	13,464	△12.6	14,493	△10.4	8,374	△11.8
2024年6月期第3四半期	537,217	-	15,397	-	16,167	-	9,494	-

(注) 包括利益 2025年6月期第3四半期 8,373百万円 (△14.7%) 2024年6月期第3四半期 9,822百万円 (-)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期第3四半期	68.61	68.08
2024年6月期第3四半期	96.72	95.71

(注) 1. 2023年6月期第3四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2024年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 2024年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、2024年3月21日付で東京証券取引所グロース市場に上場したため、新規上場日から2024年6月期第3四半期連結会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期第3四半期	271,070	125,501	45.3
2024年6月期	283,627	118,187	40.8

(参考) 自己資本 2025年6月期第3四半期 122,674百万円 2024年6月期 115,684百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	-	0.00	-	15.00	15.00
2025年6月期	-	0.00	-	-	-
2025年6月期（予想）	-	-	-	16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年6月期の連結業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	802,900	11.8	19,200	0.2	20,400	3.1	10,400	△9.1	85.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 3社 (社名) 株式会社トライアルG0、株式会社トライアルフードパーク、株式会社魚寅、
除外 一社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年6月期3Q	122,356,500株	2024年6月期	122,318,300株
② 期末自己株式数	2025年6月期3Q	74,969株	2024年6月期	370,900株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年6月期3Q	122,064,889株	2024年6月期3Q	98,167,500株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載される業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2025年5月15日(木)に機関投資家及びアナリスト向けに決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
3. その他	10
(役員の異動)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間(2024年7月1日～2025年3月31日)における日本経済は、雇用・所得環境は改善に向かった反面、実質賃金は足踏み状態となり、電気代などのエネルギー価格及び人件費上昇に起因する物価高騰が顕著となりました。政府はエネルギー価格高騰に対して補助金政策を2025年1月から3月の間で実施しましたが、家計負担の軽減効果は限定的であります。

物価上昇に起因する節約志向を背景として、消費の二極化及び緩急が顕著となりました。すなわち、季節イベントや行事などが集まる機会に高付加価値商品の消費が活況を呈した一方、普段の生活必需品においては価格感応度が高まり、選別消費が進みました。

小売業界においては、夏の記録的な暑さなどの異常気象を背景として、野菜や米穀類などの生鮮食品の価格が急騰したことで、消費者の生活防衛意識が加速度的に高まりました。

そのような環境の中、当社グループが掲げる「テクノロジーと、人の経験知で、世界のリアルコマースを変える。」というビジョンを実現するため、新規出店による店舗網の拡大や、「食」の強化や改装による既存店の成長力強化を進めております。

さらに、Skip Cart(決済機能付きレジカート)やインスタサイネージ(電子看板)などIoTデバイスの導入推進によって、便利なお買い物体験の提供や、データの蓄積及び活用を進める取り組みを実施してまいりました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高600,037百万円(前年同期比11.7%増)、営業利益13,464百万円(同12.6%減)、経常利益14,493百万円(同10.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益8,374百万円(同11.8%減)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。

なお、売上高については、外部顧客への売上高の金額によっております。また、セグメント利益又はセグメント損失については、未実現利益の消去等及び全社費用を調整する前の金額によっております。

(流通小売事業)

『あなたの「生活必需品」。』をコンセプトとして、食品や日用消耗品を中心とした豊富な商品ラインナップを、競争力ある価格で、24時間いつでもお買い物いただける店舗づくりを行っており、多様化するライフスタイルのあらゆるニーズにお応えしております。

当第3四半期連結累計期間における流通小売事業の既存店売上高は、惣菜をはじめとする魅力的な商品ラインナップや価格提案によって客数が増加し、高い売上高成長率を牽引しました。

中長期的な成長を見据えて積極的に新規出店を進め、メガセンターを4店舗、スーパーセンターを15店舗、smartを4店舗、小型店を4店舗の計27店舗を出店し、閉鎖店舗はありませんでした。また、smart1店舗を小型店に業態転換しました。

なお、新規出店数には、2024年11月に群馬県でスーパーマーケットを運営する株式会社スーパー丸幸より吸収分割の方法で承継した2店舗を含んでおります。

当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、345店舗(うちFC3店舗を含む)となりました。改装は、スーパーセンター13店舗、smart2店舗、小型店4店舗の計19店舗において実施しました。

以上の結果、当事業の売上高は597,051百万円(前年同期比11.6%増)、セグメント利益は15,585百万円(同10.8%減)となりました。

(リテールAI事業)

便利なお買い物体験の提供や店舗オペレーションの省力化を目指したリテールテクノロジーの開発及び導入拡大のための投資を継続実施しております。

Skip Cartの導入推進(2025年3月末時点の当社グループ外での導入も含む導入店舗数:249店舗、導入台数:21,022台)によって、決済時にレジの列に並ぶ必要がないなど、お客様視点の利便性が向上していると同時に、店舗のスループット(時間当たりのレジ通過客数・点数)が上昇しております。2024年10月に当社グループ外の小売企業2社に新たに試験導入し、実証実験を進行中です。

また、小型店(TRIAL GO)において、レジ端末に設置されたカメラによる顔認証決済の実証実験を推進するなど、新しい時代の買い物体験を展開する取り組みを行っております。

以上の結果、当事業の売上高は720百万円(前年同期比0.2%減)、セグメント損失は0百万円(前年同期はセグメント損失418百万円)となりました。

(その他事業)

その他事業は、不動産・リゾート事業を含んでおり、主にリゾート施設にて「食の強化」を体現する体験型施設としての認知度が高まりつつあります。

運営しているゴルフ場や旅館は、国内旅行の需要に加えて、アジアを中心とする訪日外国人観光客の需要を獲得することができました。

以上の結果、当事業の売上高は2,024百万円(前年同期比50.7%増)、セグメント利益は434百万円(前年同期はセグメント損失34百万円)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ12,557百万円減少し、271,070百万円となりました。これは主として、現金及び預金が44,387百万円減少し、建物及び構築物が11,929百万円、棚卸資産が7,798百万円、建設仮勘定が4,707百万円、売掛金が1,990百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ19,871百万円減少し、145,568百万円となりました。これは主として、買掛金が14,609百万円、未払法人税等が3,109百万円、未払消費税等が2,927百万円減少し、契約負債が2,654百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ7,313百万円増加し、125,501百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益を8,374百万円計上し、剰余金の配当を1,829百万円実施したことにより利益剰余金が6,545百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年6月期の連結業績予想につきましては、本日(2025年5月14日)公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	91,947	47,559
売掛金	1,170	3,161
棚卸資産	46,440	54,238
その他	12,743	12,882
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	152,300	117,841
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	120,310	137,115
減価償却累計額	△46,539	△51,414
建物及び構築物 (純額)	73,771	85,700
機械装置及び運搬具	15,143	16,670
減価償却累計額	△8,993	△9,625
機械装置及び運搬具 (純額)	6,150	7,045
土地	21,474	22,380
建設仮勘定	2,416	7,123
その他	38,208	42,682
減価償却累計額	△28,324	△31,344
その他 (純額)	9,883	11,337
有形固定資産合計	113,694	133,587
無形固定資産		
その他	1,879	2,761
無形固定資産合計	1,879	2,761
投資その他の資産		
投資有価証券	5,777	5,502
繰延税金資産	2,880	3,161
建設協力金	1,747	1,696
敷金及び保証金	5,282	5,683
その他	64	834
投資その他の資産合計	15,752	16,879
固定資産合計	131,327	153,228
資産合計	283,627	271,070

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	101,838	87,228
1年内返済予定の長期借入金	3,949	3,124
未払金	7,449	9,202
未払法人税等	5,370	2,261
未払消費税等	2,927	—
契約負債	9,644	12,299
賞与引当金	732	1,535
ポイント引当金	723	785
その他	10,374	8,380
流動負債合計	143,010	124,819
固定負債		
長期借入金	12,195	9,727
資産除去債務	8,466	9,131
その他	1,767	1,890
固定負債合計	22,429	20,749
負債合計	165,440	145,568
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,777	19,802
資本剰余金	23,242	23,601
利益剰余金	71,952	78,497
自己株式	△529	△105
株主資本合計	114,443	121,795
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	711	465
繰延ヘッジ損益	10	10
為替換算調整勘定	517	402
その他の包括利益累計額合計	1,240	878
非支配株主持分	2,503	2,827
純資産合計	118,187	125,501
負債純資産合計	283,627	271,070

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年7月1日 至2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年7月1日 至2025年3月31日)
売上高	537,217	600,037
売上原価	430,952	479,989
売上総利益	106,264	120,048
その他の営業収入	1,881	2,035
営業総利益	108,145	122,083
販売費及び一般管理費	92,747	108,619
営業利益	15,397	13,464
営業外収益		
受取利息及び配当金	10	93
持分法による投資利益	448	318
固定資産受贈益	—	347
その他	582	472
営業外収益合計	1,041	1,230
営業外費用		
支払利息	66	54
為替差損	64	17
固定資産除却損	68	24
賃貸借契約解約損	—	27
その他	71	78
営業外費用合計	271	201
経常利益	16,167	14,493
特別損失		
減損損失	31	19
特別損失合計	31	19
税金等調整前四半期純利益	16,136	14,474
法人税、住民税及び事業税	7,245	5,969
法人税等調整額	△918	△231
法人税等合計	6,326	5,738
四半期純利益	9,810	8,735
非支配株主に帰属する四半期純利益	315	361
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,494	8,374

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年7月1日 至2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年7月1日 至2025年3月31日)
四半期純利益	9,810	8,735
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△32	△181
為替換算調整勘定	34	△66
持分法適用会社に対する持分相当額	10	△114
その他の包括利益合計	12	△362
四半期包括利益	9,822	8,373
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,506	8,012
非支配株主に係る四半期包括利益	315	361

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日、以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。また、利益剰余金、資本剰余金及びその他の包括利益累計額の当期首残高への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年7月1日 至2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	流通小売	リテールAI	計				
売上高							
外部顧客への売上高	535,083	721	535,805	1,343	537,148	68	537,217
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16	2,795	2,811	1,841	4,652	△4,652	—
計	535,100	3,516	538,617	3,184	541,801	△4,584	537,217
セグメント利益又は 損失(△)	17,463	△418	17,045	△34	17,010	△1,612	15,397

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産・リゾート事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額68百万円は、事業セグメントに配分していない売上高であります。

(2) セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△4,652百万円は、セグメント間取引消去△4,652百万円であります。

(3) セグメント利益又は損失の調整額△1,612百万円は、未実現利益の消去等△23百万円、全社費用の純額△1,589百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

重要な事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2024年7月1日 至2025年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	流通小売	リテールAI	計				
売上高							
外部顧客への売上高	597,051	720	597,771	2,024	599,796	240	600,037
セグメント間の内部 売上高又は振替高	42	2,938	2,981	3,557	6,539	△6,539	—
計	597,093	3,659	600,752	5,582	606,335	△6,298	600,037
セグメント利益又は 損失 (△)	15,585	△0	15,585	434	16,020	△2,555	13,464

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産・リゾート事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額240百万円は、事業セグメントに配分していない売上高であります。

(2) セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△6,539百万円は、セグメント間取引消去△6,539百万円であります。

(3) セグメント利益又は損失の調整額△2,555百万円は、未実現利益の消去等△127百万円、全社費用の純額△2,428百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

重要な事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、株式会社白鳥ロジスティックシステムのセグメント区分を従来の「その他」から「流通小売」へ変更しております。この変更は、2025年1月1日を効力発生日として、当社の連結子会社である株式会社トライアルリアルエステートが有する株式会社白鳥ロジスティックシステムの管理事業に関する権利義務の一部を吸収分割の方法により、当社の連結子会社である株式会社トライアルカンパニーに承継させたことに伴い、セグメント区分の見直しを行ったものであります。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分により表示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年7月1日 至2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年7月1日 至2025年3月31日)
減価償却費	8,660百万円	9,957百万円
のれんの償却額	62	—

3. その他

(役員の変動)

役員の変動につきましては、2025年3月25日に公表いたしました「代表取締役の変動に関するお知らせ」をご覧ください。